



若榮堂蔵

錦朝樓芳虎画

初編下

山々亭有人補綴

三遊亭圓月

約大横田



10

15

20

25

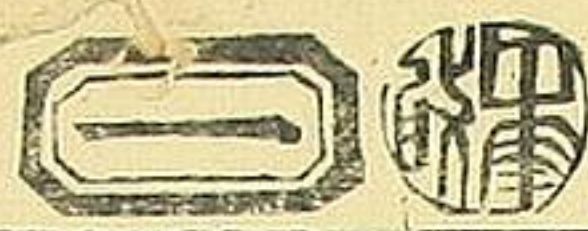
30

夢

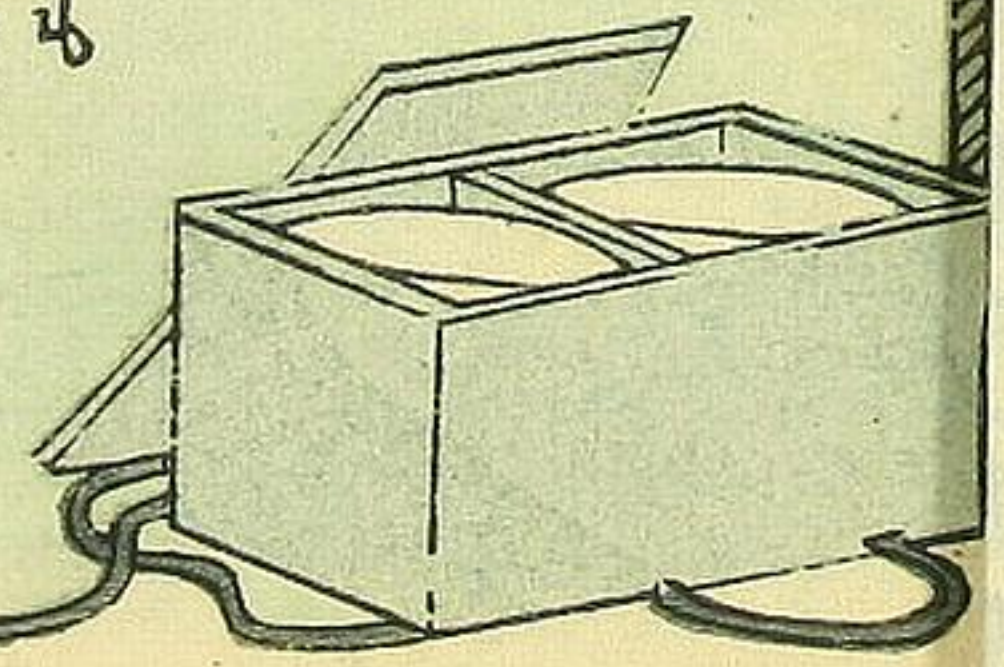
三遊亭圓朝作話
山々亭有人補綴
錦朝樓芳席画圖

初冬 上の巻

くろの志ん壽揮



血郎の古染附を新渡文様と翻案たる三遊亭が
 落語馬も急る候も手作の茶碗もあらで
 茶番めく蛇足も時と粟田口あたら青磁の艶
 話も僕焼継の手も成て看み奥あく思さん
 人形手とりも画様へ更あり曆手といふ庸書も
 其彫面の的歴へ具祥瑞もかへ川をもち外題係の
 羨と舗へ九谷の赤繪も欺く程意筑紫の鍋嶋焼瀬戸
 又因その大尾迄當年局を結ぶを以て御高覽を冀ふ
 と書房が告



明治三庚午仲冬結稿
全四辛未孟春發兌

山々亭有人記





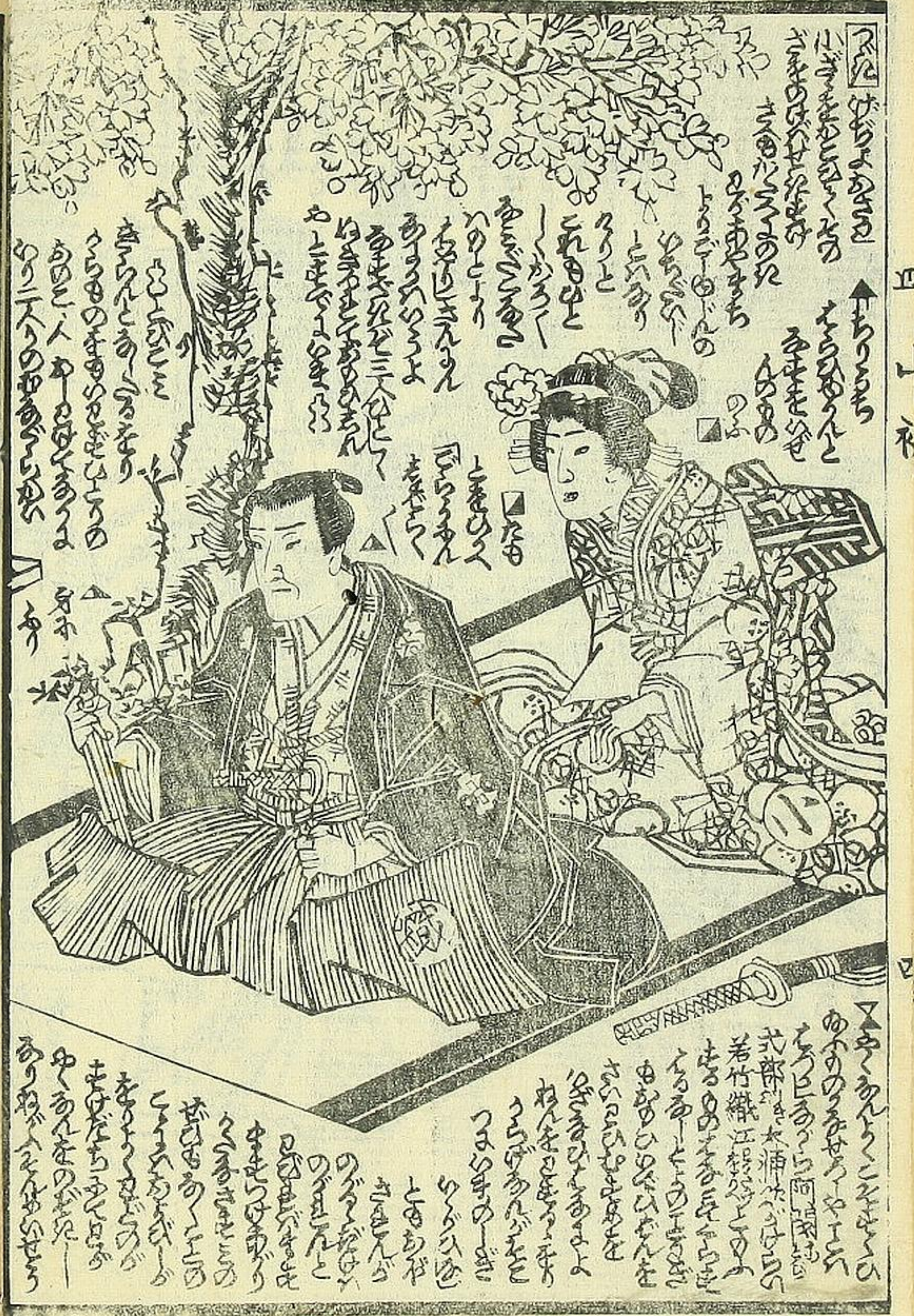
正子松遺
松後松
天松

義松赤城
血實晴陰
主山入明陽
堂師

侍松
女松
於松
菊

阿
春邊梅三郎
式部大輔
三郎様
規

山
衣



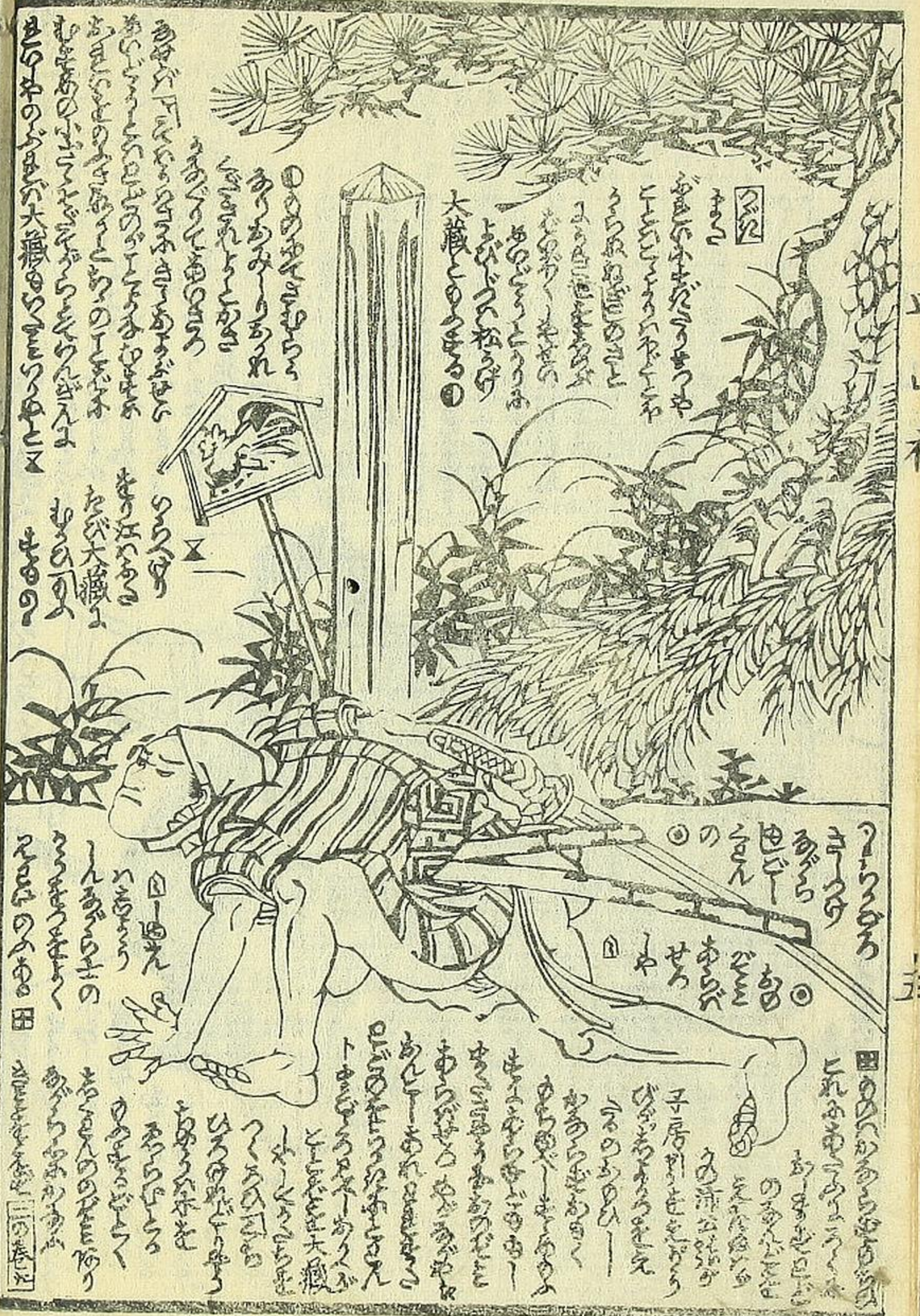
Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect or a specific form of shorthand. The text is arranged in vertical columns, starting from the top right and moving towards the left. It appears to be a list or a series of notes related to the scene above.

Handwritten text in a cursive script, continuing the notes from the top section. It is arranged in vertical columns, starting from the top right and moving towards the left. The text is dense and difficult to decipher without knowledge of the specific dialect or shorthand used.



Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect or a specific form of shorthand. The text is arranged in vertical columns, starting from the top right and moving towards the left. It appears to be a list or a series of notes related to the scene above.

Handwritten text in a cursive script, continuing the notes from the top section. It is arranged in vertical columns, starting from the top right and moving towards the left. The text is dense and difficult to decipher without knowledge of the specific dialect or shorthand used.

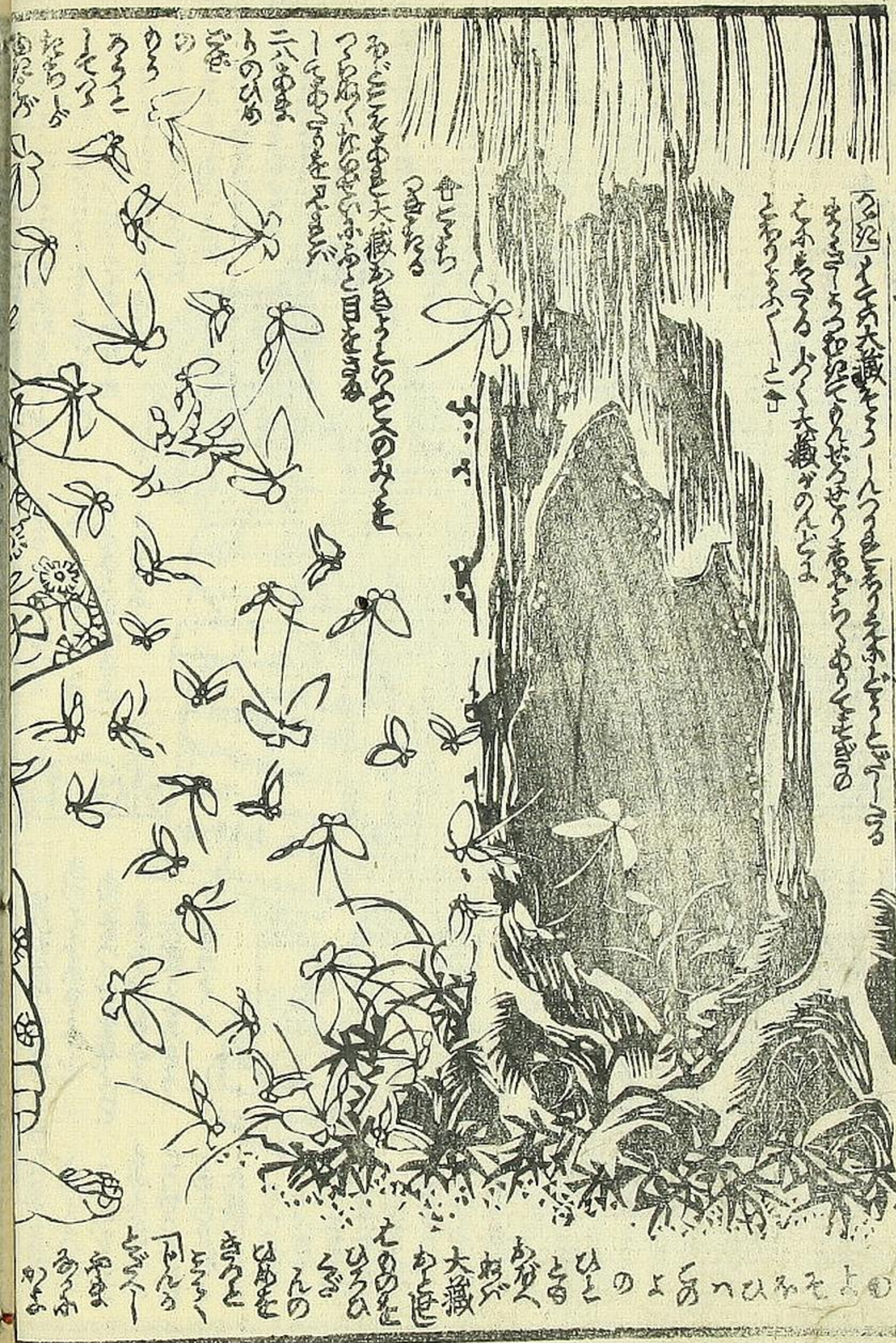


Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, with some lines branching out to point towards specific elements in the drawing.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, with some lines branching out to point towards specific elements in the drawing.

この山は初春の山にして、
雪の残る所ありて、
春の気配ありて、
山花の咲き出す所なり。



山花の咲き出す所なり
春の気配ありて
雪の残る所ありて
初春の山にして

この山は初春の山にして、
雪の残る所ありて、
春の気配ありて、
山花の咲き出す所なり。



この山は初春の山にして、
雪の残る所ありて、
春の気配ありて、
山花の咲き出す所なり。



江戸の風景
 花の香りに
 春の風が吹く
 水鏡に映る
 柳の影が
 静かなる
 夕陽の光

胡蝶の舞
 花の散る
 水鏡に映る
 柳の影が
 静かなる
 夕陽の光



江戸の風景
 花の香りに
 春の風が吹く
 水鏡に映る
 柳の影が
 静かなる
 夕陽の光

胡蝶の舞
 花の散る
 水鏡に映る
 柳の影が
 静かなる
 夕陽の光





有人補綴 圓朝作話 芳虎画

菊文様 四山奇談

山々亭有人補綴
三遊亭圓朝作話
錦朝樓芳虎画

舊者本多の
新しき書物
不代第
書納家
かたが

所遺為念入情

下直と書するに中

地本 草紙 錦繪問屋 若柴堂 壽梓

東京南傳馬町三丁目

010190518367





若榮堂藏

錦朝樓芳虎画

山人亭有人補終

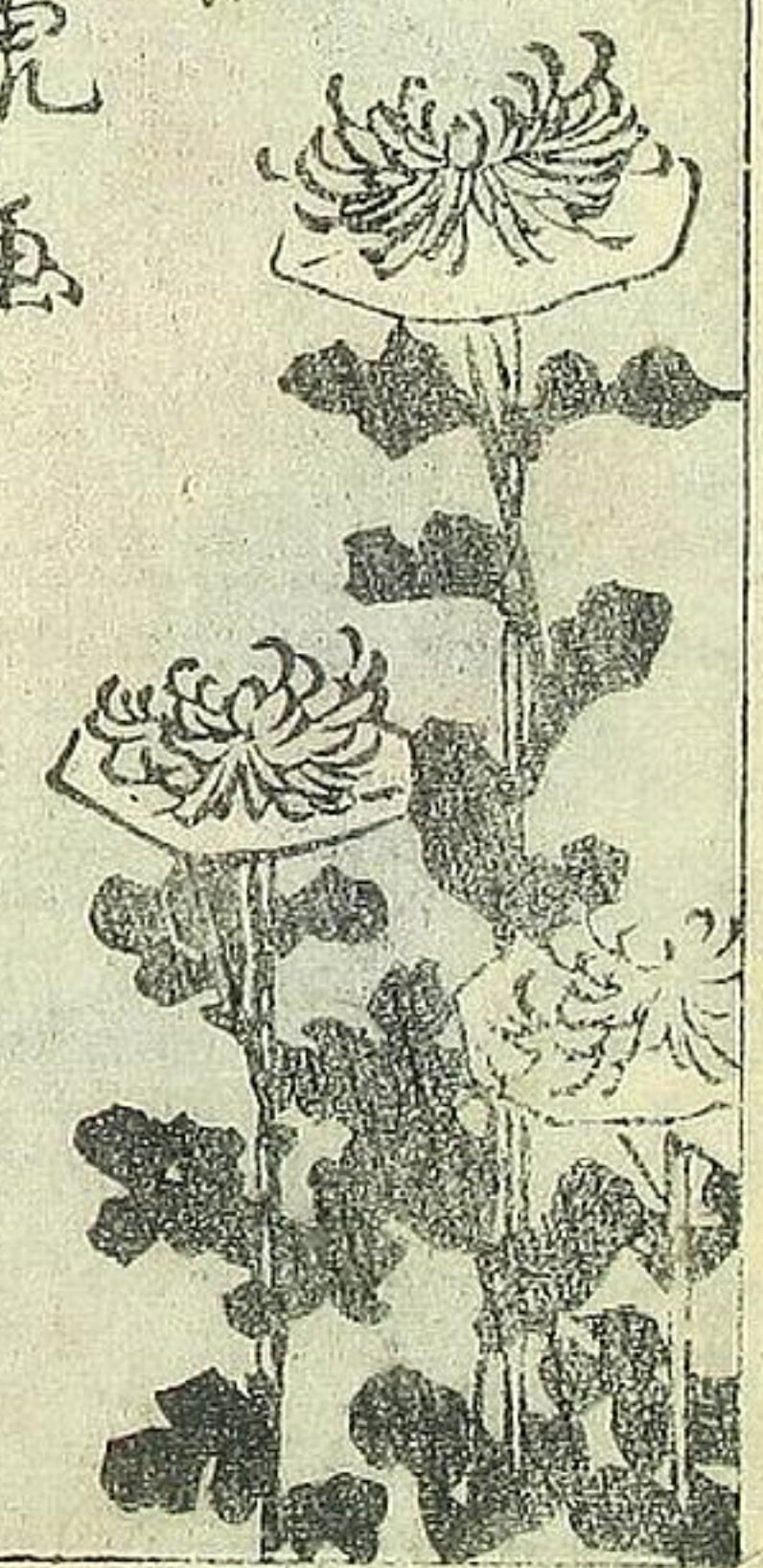
初編下

A.395
2

山々亭有人補綴

三遊亭圓朝作話

錦朝樓芳虎画

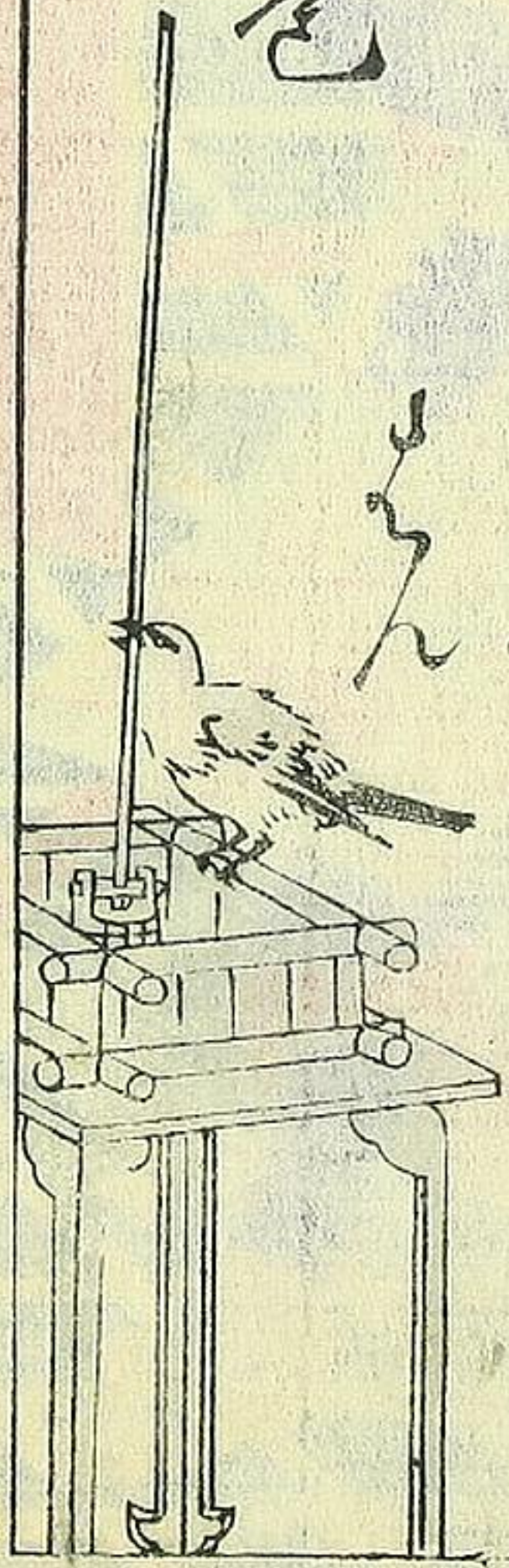


初屋人

下乃巻

己かきや

らん

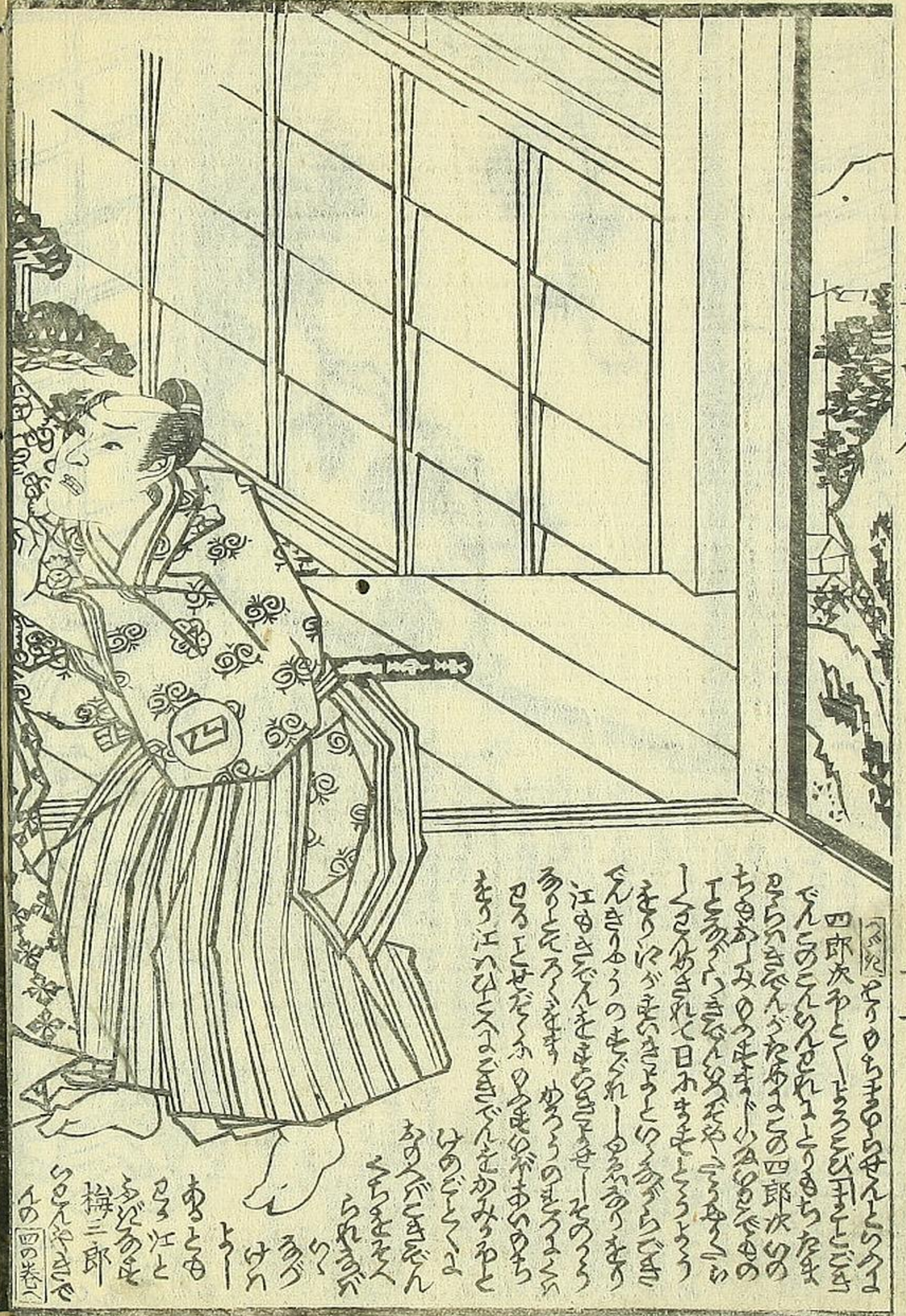


二の巻
かきやの
らん

かきやの
らん
大敷ひらり身をまきり
きくをまきりてあやむ
くらに六日つれあひ
かきやのらん

五
山
刀

28-7611

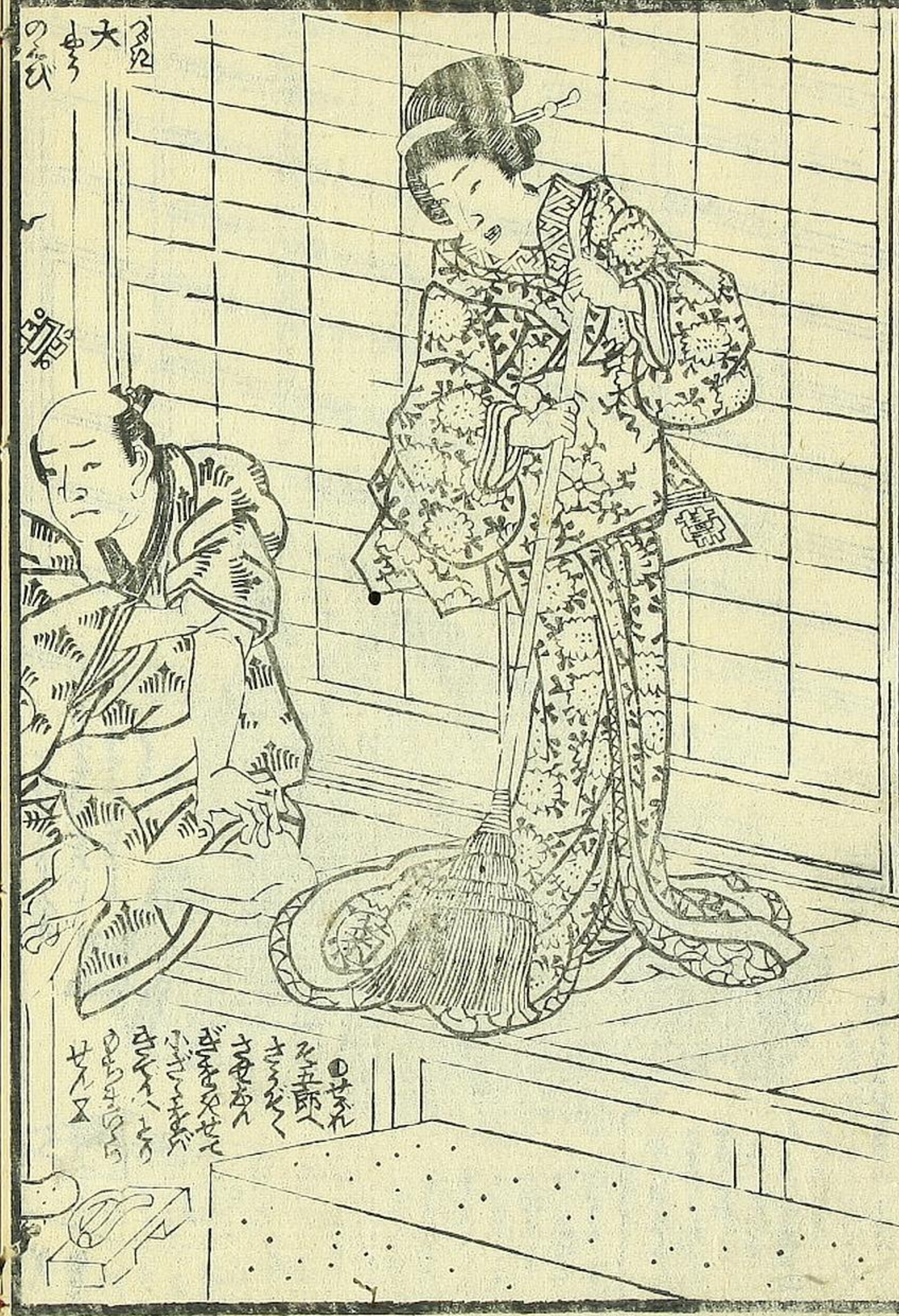
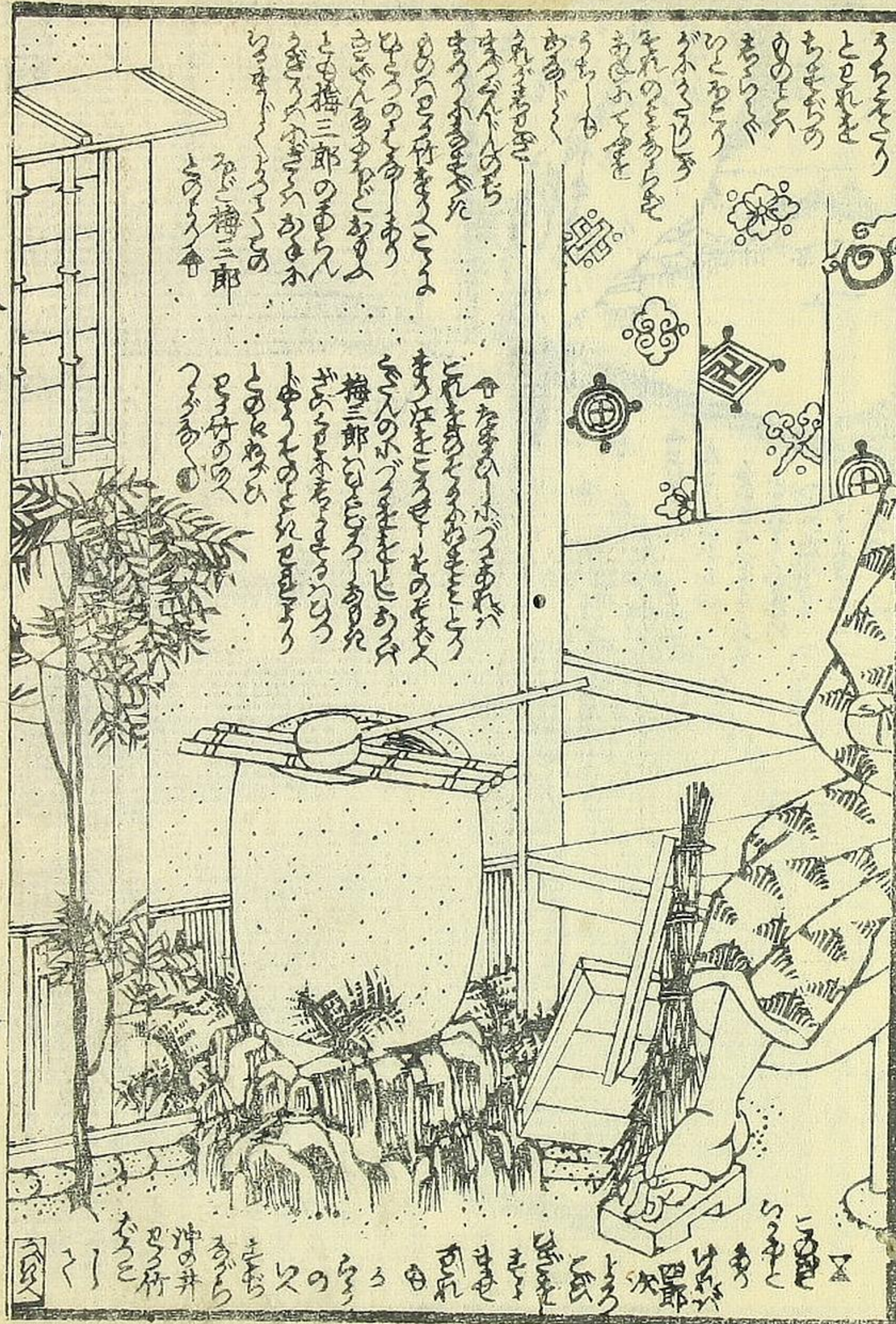


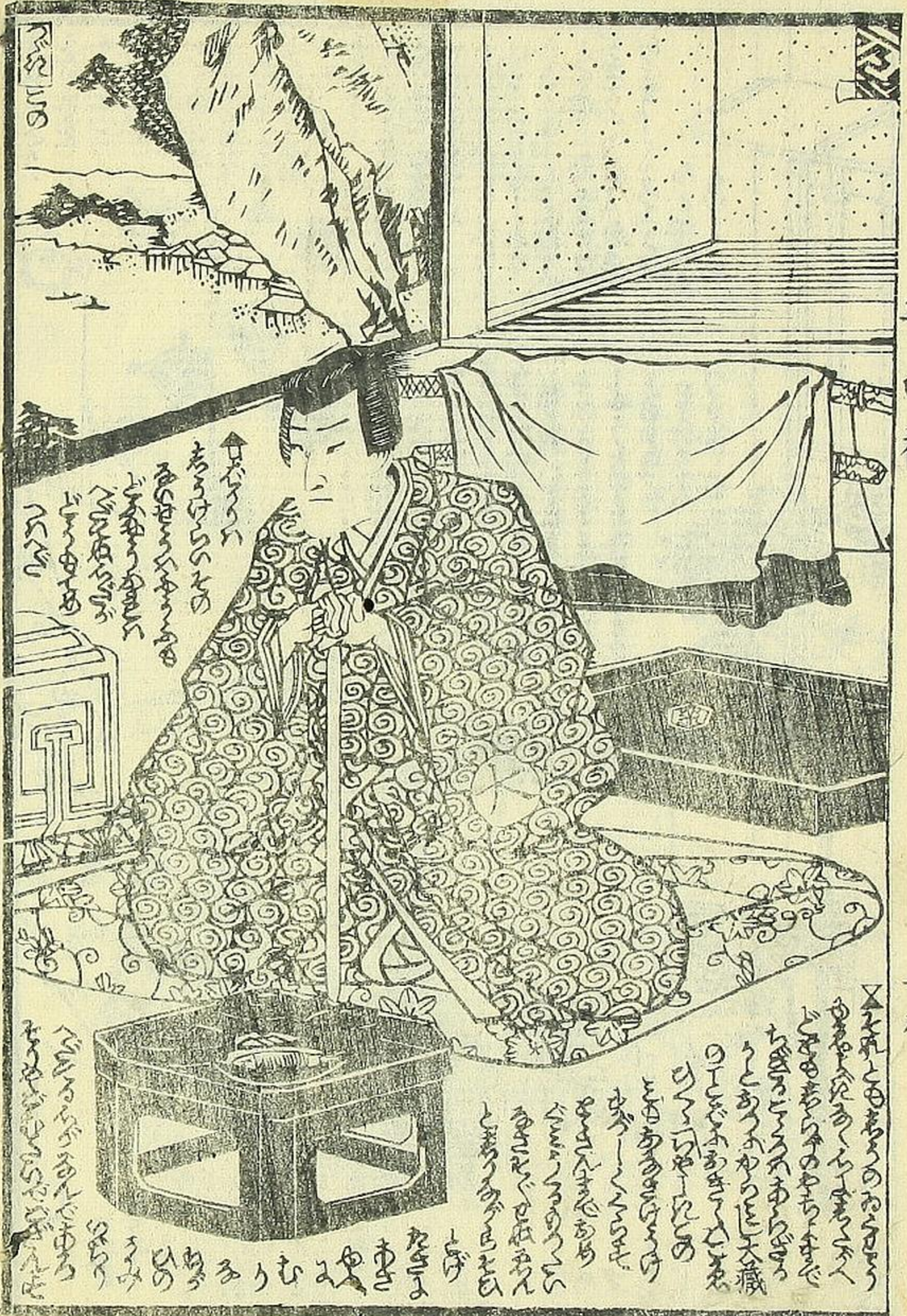
四郎次郎は...
 大...
 梅三郎...
 四郎次郎...



三の巻...
 十種香...
 大...
 四郎次郎...

大...
 四郎次郎...
 梅三郎...
 四郎次郎...



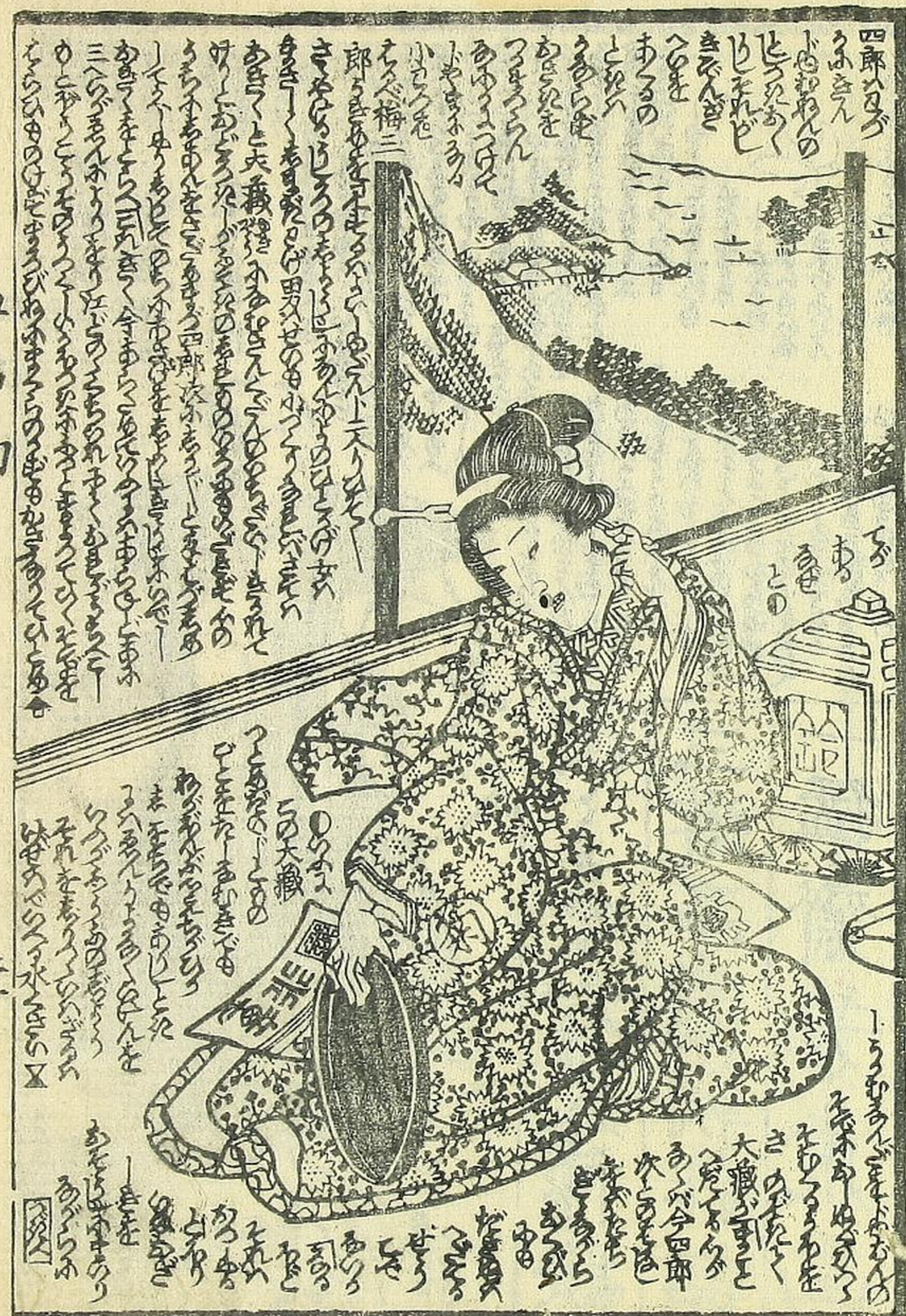


四
 五
 六
 七
 八
 九

窓の
 外の
 風景
 を
 見
 る

女
 の
 姿
 容
 を
 描
 け
 女
 の
 着
 姿
 を
 描
 け
 女
 の
 手
 持
 の
 物
 を
 描
 け
 女
 の
 坐
 する
 所
 を
 描
 け
 女
 の
 前
 の
 物
 を
 描
 け

四
 五
 六
 七
 八
 九



四
 五
 六
 七
 八
 九

窓の
 外の
 風景
 を
 見
 る

女
 の
 姿
 容
 を
 描
 け
 女
 の
 着
 姿
 を
 描
 け
 女
 の
 手
 持
 の
 物
 を
 描
 け
 女
 の
 坐
 する
 所
 を
 描
 け
 女
 の
 前
 の
 物
 を
 描
 け

女
 の
 姿
 容
 を
 描
 け
 女
 の
 着
 姿
 を
 描
 け
 女
 の
 手
 持
 の
 物
 を
 描
 け
 女
 の
 坐
 する
 所
 を
 描
 け
 女
 の
 前
 の
 物
 を
 描
 け

010190518375

明治四辛未歲略目

東京名所三十六景

當春より退く出板仕

中錦繪

廣重画

甲武者部類

越中錦繪 芳年画

五十番つき

右より揚子江を別版意入
仕り男洲形に秘を類
上の

東の笹川 西の飯岡 使相撲諏訪神力

七編とみま

山々亭有人作

一蕙齋芳幾画

備書 思成

山々亭有人補綴

三遊亭圓朝作話

一猛齋芳虎画



四年 阿閑唯冬
家老沖井
新左衛門
三平
...

四山初

地本巾紙問屋

東京南傳馬丁三町目

若狭屋甚五郎梓



菊

四山
奇談

初編

山々亭有人補綴

三遊亭圓朝作話

錦朝樓芳虎画

長壽

